

地域再生計画

1 地域再生計画の申請主体の名称

島根県飯石郡吉田村

2 地域再生計画の名称

稲と鉄のフィールド交流による地域再生

3 地域再生の取組を進めようとする期間

平成16年度から平成20年度

4 地域再生計画の意義及び目標

島根県飯石郡吉田村はかつて和鉄の生産で栄えた中国山地にあり、最盛期の江戸中期にはこの地方で全国の7割から8割を生産していた。その中心地にあった当村は経営者の田部家や日本唯一現存する重要民俗資料「菅谷たたら山内」を有し、随所に鉄に関わる遺構を残す村である。近年の大ヒット映画となった「もののけ姫」はこの吉田村を取り扱った「和鋼風土記」を素材に描いたものと言われ、豊富な自然とともに自然の裏側に潜む自然破壊と復旧の歴史を繰り返してきた地域でもある。この村では、昭和59年よりこの鉄を素材とした地域づくりに取り組んでおり、昭和62年3月「鉄の歴史村」を宣言した。

また、平成10年より行政住民一体となった街並再生に取り組んでおり、これらを起爆剤として、都市交流を推進し新たな交流産業を起こすことを目的とした動きが既に生まれている。当村は本年の11月1日近隣5町村と合併し、雲南市になることが決定しているが、周辺過疎に甘んじねばならない当村はさびれ対策が急務である。行政では、合併後のこの地域のオンリーワン事業に「文化遺産の保存と街並整備」をあげ、行政と民間の協働作業として、交流型商業開発委員会や交流型農業研究会を設立し活動を行っている。民間においては、(株)鉄の歴史村と(有)木村有機農園が設立された。さらに、既存会社にも数々の取り組みがあり、市町村合併という変革期に民間と一体となって地域の存亡をかけた再生に取り組もうとしている。

稲と鉄は日本文化の源流であり、そのふるさとの香りただよう吉田村との交流は、都市住民に他では味わえない雰囲気を与えるものとする。

この地域で作られた鉄の流通は北前船を通して全国に流通していった。そして逆に全国の名産をこの地にもたらした。この名産を街並み景観の随所に配置し、街並みをより楽しめる仕掛けを住民とともに平成16年度より着手する。

さらに、この地域は中国地方の代表的な米産地でもあり、また、他では見られないほどの稲わらの名工が生存し、数多くの稲わら製品を生み出している。稲の生産は鉄の生産技術の進歩により飛躍的進歩してきた。稲の道の下には鉄の道があったと言われるほど日本文化の根幹であった。稲の歴史、生活との関わり、製品を通して、楽しめるとともに日本文化に触れ、学ぶ空間を作っていくものとする。

これらの文化的背景を活かし、各種のイベントを通じて都市との交流を促進していく。

この交流から生まれる新たな産業、数々の農産品や新たな消費を通して地域の産業の活性化と定住に結びつけていく。

支援措置を活用していくことにより、街並み景観に関わる着実な景観整備を図るとともに、より多くのソフト展開に努めることで、交流人口の増大につながり新たな起業創業を生み出すことになる。仮に人口の減少が生じても、この地域に住む人が豊かさを感じることでできる地域となることを目指す。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

平成16年3月の新たな法人の立ち上げなども含めて、この事業実施により、少なくとも20人の新たな雇用は生まれるものと考えられる。しかし最も大きな経済効果は商品販売額の増加であり、平成16年度推計7億余りの推定値を5年間で2割アップを目指し、10億により近い数字となるようにする。

ツーリズムの実施は新たな入込客をつくりだす。現在、100人に満たない入込客は、1,500人と15倍を目指す。

観光客の増が見込まれ、3割のアップを目指す。芦谷峡の川床などの実施が可能となればさらに増加することができる。

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

2 1 2 0 2 8 まちづくり交付金の創設

2 1 2 0 3 0 河川占用における「包括占用制度活用ガイドライン」の策定等

2 1 2 0 3 3 路地や細街路の美しいたたずまいの保全・再生

2 3 0 0 0 4 都市と農山漁村の共生・対流に関する施策の連携強化

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業
該当なし

8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

この地域再生計画は日本文化を基調とした交流の実施を基幹としている。そこで、平成17年度以降はこれに関連するイベントを数多く実施していくこととなる。そこで文化芸術による創造まち支援事業を活用し、積極的なイベントを行っていききたい。

この地域には、前述のように稲わら製品の高度な作品を作る人も多い。稲に関わる生活文化、稲に関わる製品の情報発信に努め、稲の最高産品、米、餅、酒の販売へと結びつけていく。

さらに、もののけ姫に描かれた森の精を感じてもらう自然水の試飲や蛭観賞などのエコツーリズムなどもプログラムに加え、より多くのツーリズムを展開していく。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

2 1 2 0 2 8 まちづくり交付金の創設

2 当該支援措置を受けようとする者

吉田村

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

吉田村の中心地吉田町はかつての日本一の山林王田部家を中心に町が形成され、独特な街並み景観を持つ町である。この景観整備に町の住民も平成11年より取り組んでいる。ちょうどこの町の下水道整備が平成16年度より着手し、この街並景観地区を17年度に施工することが決定している。これを睨んで、電線類の地中化石置の整備などの同時施行を図るべくその準備を進めてきた。

第5期電線類無柱化計画にも既に取り上げられており、あとは事業主体が遂行するだけの状況になっている。

吉田村は街なみ環境整備事業とまちづくり総合支援事業を導入し、この農業集落排水事業にあわせた整備事業を実施する予定で進めてきた。

まちづくり総合支援事業に引き続き、まちづくり交付金事業を活用し、街並みに関わる整備をより一層促進していきたい。

平成16年度においては、既に村有地となっている敷地の交通広場整備に着手し、平成17年度の電線類の地中化等の整備を目指す。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

2 1 2 0 3 0 河川占用における「包括占用制度活用ガイドライン」の策定等

2 当該支援措置を受けようとする者

吉田村、(株)田部

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

一級河川斐伊川の支流深野川の上流芦谷はブナ林から流れ込む清流である。この場所で(株)田部は現在養魚場や釣り堀、食事処を経営しており、現在でも春の新緑や夏の涼、秋の紅葉を求めて訪ねる人も多い。この場所は交流や観光の上で爆発的に人を集める要素を持っている。(株)田部でも改良計画を持っており、より多くの集客力を期待している。

吉田村としては(株)田部の堤内側の改良計画と併せ、地域再生事業として深野川の河川敷と一体となった公園整備を計画し、非常にまれな清流と一体感のある空間を作り出したい。そして、より多くの誘客に努めたい。市町村合併の昨今この地域での就労の場は貴重であり、この計画の実施は新たな雇用が確実に見込めるため、吉田村としては、平成16年度中に発出が予定されているガイドラインを参考に包括占用制度を活用して取り組みを進めていきたい。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

2 1 2 0 3 3 路地や細街路の美しいたたずまいの保全・再生

2 当該支援措置を受けようとする者

吉田村

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容
まちづくり交付金による整備予定地区の街並みにおける特色としては、坂が多く路地が入り組んだ「坂と路地のまち」であることがあげられる。

国においては景観法の制定が予定されており、また路地や細街路の美しいたたずまいを活かした地区の整備が望まれている。

吉田村としてもこの趣旨を踏まえて歴史的な景観を残した街づくりの保全を推進していく。平成16年2月に発出されたこの支援措置による通知にそって、条例の制定を予定しており、これにより魅力あるまちづくりを実現していく。

この路地を活用し、魅力ある街並みの形成を進めていくことにより、地域住民にとっての居住性や生活満足度の向上ばかりでなく、観光客に対するアピール、集客力増加につながっていくものと考えられる。

「いかに、この地域を歩いてもらうか」というのが観光施策の大きなテーマであるが、これに対する具体的な取り組みとして、魅力ある街並みの整備とともにオブジェの設置や北前船関連の設置を予定している。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

230004 都市と農山漁村の共生・対流に関する施策の連携強化

2 当該支援措置を受けようとする者

吉田村、(財)鉄の歴史村地域振興事業団、(株)鉄の歴史村、(有)木村農園

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容
かつて和鉄の中心地であった吉田村から北前船を通じて全国各地に配送されていった。逆に全国各地の名産品がこの山深い里にもたらされた。

観光客の誘致に際しては、「この街並みをいかに歩いてもらうか」という視点にたち、商店街を中心として、地域の随所で個人が所蔵する北前船に関わる逸品を展示していくことで魅力のある街並みを目指す。吉田村もこの活動に対しては経済的支援を含めて実施していく。また、行政施設においても、この展示に対し、関連品や流通経路解説パネルなどを作成し、参加する考えである。

また、稲わら製品などの展示施設の充実を図り、稲に関わる全国の文化も併せて紹介し、稲と鉄に関わるエコミュージアム空間を創造する。

吉田においては、グリーンツーリズムにヘリテッジ(遺産)ツーリズムやテクノヘリテッジ(伝統技術)ツーリズムの相乗効果を出していく。たとえば既の実施している、マイナイフの製作や田部家の裏門と吉田川の空間で行われる屋外喫茶や演奏会などが考えられる。これらによる吉田の独自性を醸成していくものとする。

平成16年度実施を行うものは、北前船に関わる名産品の蒐集作業と村内にある北前船関連品の展示作業を実施する。平成16年度に行われる情報提供をもとに、取り組みを進めていきたい。